

(仮称) 三田市新ごみ処理施設整備・運営事業

## 審 査 講 評

令和5年12月

三田市新ごみ処理施設  
整備・運営事業者選定委員会

## 目 次

第1	事業の概要 .....	1
第2	事業者選定までの経過.....	4
第3	審査の手順及び方法.....	6
第4	審査結果 .....	11
第5	総評 .....	16

## 第 1 事業の概要

### 1. 事業名称

(仮称) 三田市新ごみ処理施設整備・運営事業

### 2. 事業の対象となる公共施設等の種類

一般廃棄物処理施設（焼却施設及び粗大ごみ処理施設）

### 3. 公共施設等の管理者

三田市長 田村 克也

### 4. 事業の目的

本事業は、平成4年3月に稼働した三田市クリーンセンターが約30年を経過し、老朽化していることから、ごみ処理施設が有するライフラインとしての重要性を踏まえ、安全・安心な市民生活を維持すると共に、2050年ゼロカーボンシティの実現に向けて環境性能やライフサイクルコストにも優れ、さらに地域循環型社会や脱炭素社会の実現に向けて、焼却エネルギーを使った発電（サーマルリサイクル）を行うことで、地域に密着したシンボリックな地産地消型エネルギーセンターとして新ごみ処理施設の整備・運営を行うものである。

併せて、事業者の経営能力及び技術的能力等の民間ノウハウを活用することにより、新ごみ処理施設の効率的かつ効果的な設計・建設及び運営・維持管理を行うことで積極的なエネルギーの活用及び三田市の財政負担軽減に努め、将来にわたり安全で安定したごみの適正処理、循環型社会を構築することを目的とする。

### 5. 施設の計画概要

本施設の概要は次のとおりである。

全 体	名 称	(仮称) 新ごみ処理施設
	建設予定	兵庫県三田市香下1676番地
	事業実施区域面積	敷地面積約19,000 m <sup>2</sup>
焼却施設	処理方式	ストーカ式焼却方式（全連続燃焼式）
	施設規模	120 t/日（60 t/24h×2炉）
	処理対象物	燃やすごみ、可燃残渣、災害廃棄物
	発電設備	あり
粗大ごみ処理施設	処理方式	破碎、選別、圧縮方式
	施設規模	14 t/5h
	処理対象物	燃やさないごみ、粗大ごみ、災害廃棄物
その他		計量棟、駐車場、構内通路、植栽、門扉等

## 6. 事業期間

事業期間は次のとおりとする。

- (1) 設計・建設業務期間：事業契約締結日から令和10年9月末まで  
(試運転を含む正式引渡しまでの期間)
- (2) 運営・維持管理業務期間：令和10年10月から令和30年3月31日まで  
(19年6ヶ月)

※設計・建設業務期間中、現クリーンセンターは24時間稼働している。

## 7. 事業方式

本事業は、本施設の設計・建設及び本施設の運営に係る業務を事業者が一括して行うDBO (Design-Build-Operate) 方式により実施する。

## 8. 本事業の対象となる業務範囲

事業者が行う本事業の範囲は次のとおりとする。

### (1) 事業者が行う主たる業務

#### ア 本施設の設計・建設業務

- (ア) 本事業に必要な調査及び事業者が行うべき諸官庁届出業務
- (イ) 本施設の設計・建設
  - ※市職員、従業員等の駐車場は敷地外の市有地等で整備することも可とする。
- (ウ) 既存管理棟等の解体工事に係る設計・解体
  - ※現クリーンセンター1階及び2階会議室へ、管理棟の機能回復を行う。
- (エ) その他必要な工事
- (オ) 三田市が行う交付金申請等必要な諸官庁届出等の支援
- (カ) 三田市が行う近隣住民対応などのその他必要な支援

#### イ 本施設の運営・維持管理業務

- (ア) 受付業務（持込の予約受付を含む）
- (イ) 運転管理業務
- (ウ) 維持管理業務
- (エ) 余熱利用管理業務
- (オ) 環境管理業務
- (カ) 防火・防災管理業務
- (キ) 保安・清掃業務
- (ク) 施設見学者及び住民等対応業務（啓発業務を含む）
- (ケ) 情報管理業務
- (コ) セルフモニタリング
- (サ) 上記に附帯・関連する業務

(2) 三田市が行う主たる業務

ア 本施設の設計・建設業務に関する業務

- (ア) 用地の確保
- (イ) 住民対応
- (ウ) 本施設の交付金申請手続など必要な諸官庁届出業務
- (エ) 本施設の設計・建設監理
- (オ) その他これらを実施する上で必要な業務

イ 本施設の運営・維持管理業務に関する業務

- (ア) 住民対応
- (イ) 運営モニタリング
- (ウ) 本施設への一般廃棄物等の搬入
- (エ) 副生成物等の搬出・処分（積み込みは事業者が行う）
- (オ) 売電に関する契約業務
- (カ) その他これらを実施する上で必要な業務

## 第2 事業者選定までの経過

### 1. 事業者の募集及び選定の方法

応募希望者の自由な提案を期待し、適切な技術力、経験及び実績を持つ事業者を選定することとし、事業の透明性及び公平性の確保に配慮したうえで事業者を選定する総合評価一般競争入札方式（地方自治法施行令第167条の10の2）により実施した。

### 2. 事業者の募集及び選定スケジュール

本事業における事業者の募集及び選定スケジュールは次のとおりである。

内 容	日 程
① 入札公告及び入札説明書等の公表	令和5年4月10日
② 現地視察	令和5年4月19日、20日
③ 入札説明書等（参加資格関係）に関する質問受付期限	令和5年4月25日
④ 入札説明書等（参加資格関係）に関する質問回答の公表	令和5年5月9日
⑤ 入札参加資格審査書類等受付期限	令和5年5月18日
⑥ 入札参加資格審査結果通知	令和5年5月26日
⑦ 入札説明書等（その他）に関する質問受付期限	令和5年6月2日
⑧ 入札説明書等（その他）に関する質問回答の公表	令和5年6月16日
⑨ 質問回答及び提案事項に関する確認事項の受付期限	令和5年6月28日
⑩ 対面的対話	令和5年7月13日
⑪ 質問回答及び提案事項に関する確認事項の回答公表	令和5年7月31日
⑫ 事業提案書の受付期限	令和5年9月15日
⑬ プレゼンテーション、ヒアリング及び開札	令和5年11月27日
⑭ 最優秀提案者の決定	令和5年11月27日

### 3. 事業者選定委員会の設置

三田市は、応募者の事業提案の審査にあたって、公平かつ専門的知見に基づいて実施するため、以下の4名から構成される「三田市新ごみ処理施設整備・運営事業者選定委員会」（以下「選定委員会」という。）を設置した。

	氏 名	所属・役職
委員長	吉田 篤正	大阪府立大学大学院 工学研究科 名誉教授 早稲田大学 理工学術院 教授
副委員長	濱田 雅巳	公益社団法人全国都市清掃会議 技術指導部長
委員	飯田 匡	関西学院大学建築学部 准教授
委員	伊藤 正治	弁護士

#### 4. 選定委員会の開催経過

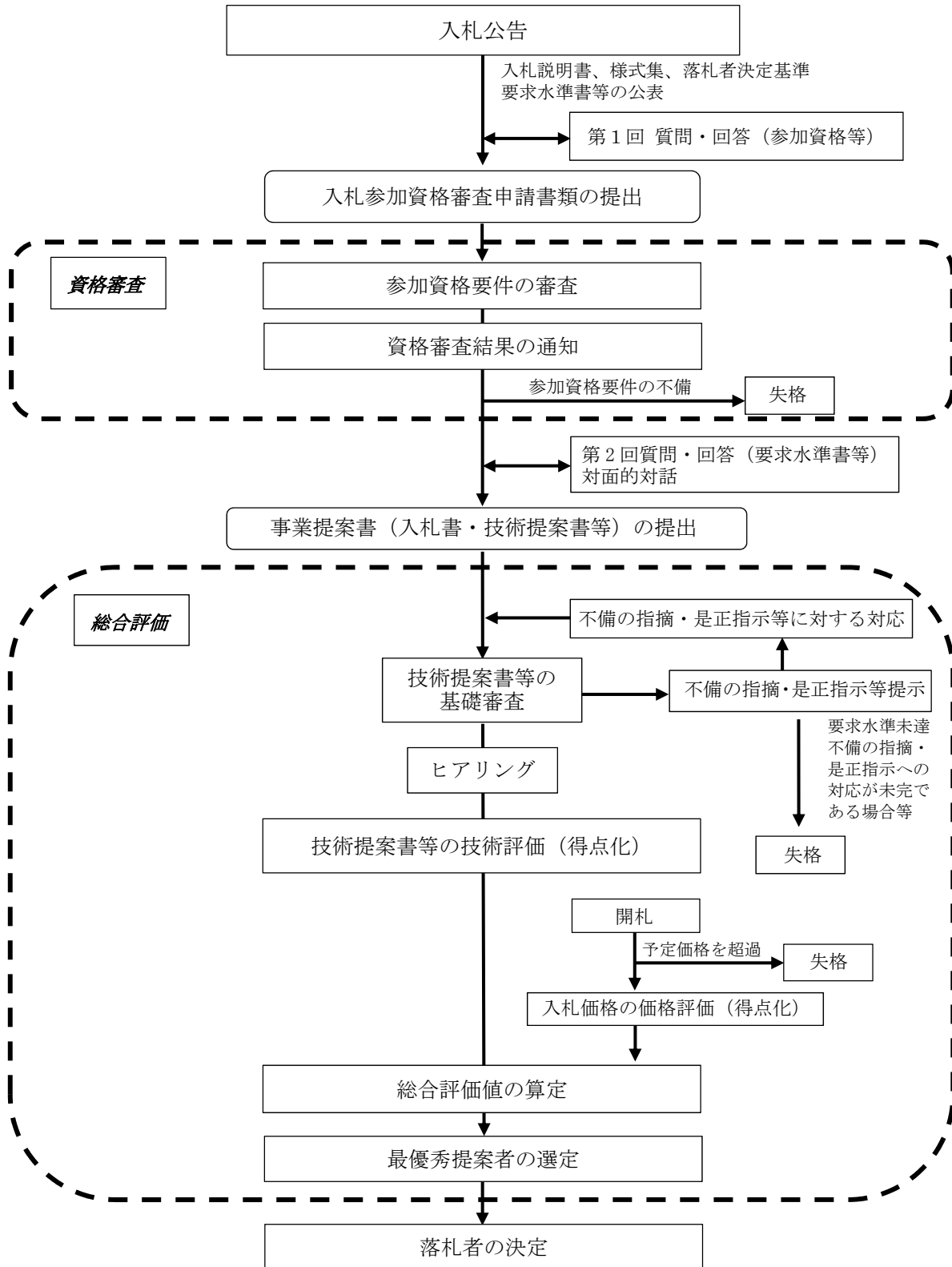
本事業における選定委員会の開催経過は次のとおりである。

日 程		主な審議事項
第1回	令和4年 9月27日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員長、副委員長の選出について</li> <li>・選定委員会の目的及び検討事項について</li> <li>・新ごみ処理施設整備・運営事業の概要について</li> <li>・選定委員会のスケジュールについて</li> <li>・実施方針(案)について</li> </ul>
第2回	令和4年 11月18日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回会議の概要の確認について</li> <li>・実施方針(案)について</li> <li>・要求水準書(素案)について</li> <li>・入札説明書(案)について</li> <li>・落札者決定基準(案)について</li> </ul>
第3回	令和5年 2月24日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回会議の概要の確認について</li> <li>・入札説明書(案)について</li> <li>・要求水準書(案)について</li> <li>・落札者決定基準(案)について</li> <li>・様式集(案)について</li> <li>・基本協定書(案)について</li> <li>・基本仮契約書(案)について</li> <li>・工事請負仮契約書(案)について</li> <li>・運営・維持管理業務委託仮契約書(案)について</li> </ul>
第4回	令和5年 8月8日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回会議の概要の確認について</li> <li>・質疑回答(第1回・第2回)及び資格審査結果の報告について</li> <li>・対面的対話(7/13)の結果の報告について</li> <li>・今後のスケジュールについて</li> <li>・審査の進め方及びヒアリング等の審議について</li> </ul>
第5回	令和5年 11月2日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回会議の概要の確認について</li> <li>・基礎審査結果の報告について</li> <li>・審査基準に関する市の考え方について</li> <li>・ヒアリング事前質疑項目について</li> <li>・ヒアリング当日(11/27)のタイムスケジュール等について</li> </ul>
第6回	令和5年 11月27日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応募者プレゼンテーション及び選定委員ヒアリング</li> </ul>
第7回	令和5年 11月27日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回会議の概要の確認について</li> <li>・技術提案内容の審議および技術評価点の決定について</li> <li>・入札書の開札および価格評価点の報告について</li> <li>・最優秀提案者の選定について</li> <li>・審査講評素案の審議および答申について</li> </ul>

### 第3 審査の手順及び方法

#### 1. 落札者決定の手順

本事業における落札者の決定は、以下に示すように、第1段階の「資格審査」、第2段階の「総合評価」の2段階で実施した。





## 2. 審査概要

### (1) 資格審査の方法

三田市は、入札参加資格審査申請書等の提出書類により、入札説明書に記載の入札者の参加要件を満たしているかを確認した。

参加資格要件の資格審査基準日は、入札参加資格審査申請書の提出期限日とする。

なお、参加資格要件を満たしていることが確認できない場合は失格とする。

### (2) 総合評価の方法

技術評価及び価格評価により総合的に評価を行う。

#### ア 審査の配点

総合評価を行ううえでの技術評価点及び価格評価点の配点は次のとおりとする。

表1 評価の配点

項目	配点
技術評価点	70点
価格評価点	30点

#### イ 技術提案書等の確認（基礎審査）

三田市は、提出された提案書類について、次に掲げる基礎審査項目の内容を審査した。

なお、基礎審査において、提出された提案書類の内容に疑義等が生じた際は、修正及び指示事項を応募者に対して提示し、応募者から提出された修正及び指示回答を確認した。

(ア) 技術提案書等の内容が、要求水準書等に示す水準を満たしていること。

(イ) 技術提案書等の内容が、入札説明書及び様式集に示す提案書の作成に関する条件に違反していないこと。

(ウ) 応募者に対して指示した修正事項の対応が未完でないこと。

#### ウ 提案書に関するヒアリング

選定委員会は、提案書の審査及び評価を行うにあたり、応募者に対し、ヒアリングを行った。なお、ヒアリングについては、応募者独自のノウハウに関する内容も含むことが想定されることから、非公開のもとで実施した。

#### エ 技術提案書等の技術評価

三田市が提示する入札説明書等（入札説明書、要求水準書、様式集、落札者決定基準、契約書案等）により提案された技術提案書の評価項目及び配点を表2に示す。

評価項目及び配点については、三田市が本事業に期待する事項の必要性又は重要性を勘案して設定したものである。

表2 技術提案書の評価項目及び配点

分類	評価(審査)項目	No	評価(審査)基準	枚数(A4)	評価区分	配点	
事業全般に関する提案	1 事業全体に関する事項	①事業実施方針・体制	1	・本事業の基本方針を実現するために本事業の特徴、課題を理解する等、事業計画の基本的な考え方について、妥当性を評価する。 ・応募者各企業の役割分担、企業間の連携、発注者との連携、バックアップ体制等、総合的な事業実施体制について、計画性と妥当性を評価する。	2	定性	2
		②施設の全体配置・動線計画	2	・敷地条件を踏まえた全体配置計画に対し、計画性と妥当性を評価する。 ・車両と車両、車両と人に対する安全確保に対し、計画性と妥当性を評価する。 ・本施設施工後の既存施設解体時の配慮について評価する。 ・作業動線やメンテナンススペースの確保など点検修繕に配慮した計画となっていることを評価する。	2	定性	4
		③施工計画	3	・狭小地域での建設時における工程遵守のための方策と工事計画の妥当性を評価する。 ・工事期間中の品質管理、安全管理の計画性と実行性を評価する。	2	定性	4
		④地域貢献	4	・本事業の実施に際して、地元企業（市内に本社・本店を有する企業）の活用と地元人材活用に最大限配慮した計画になっていることを評価する。 ・具体的な地域貢献額を評価する。	2	定量 定性	5
1 循環型社会の構築を推進する施設							
	(1) ごみ焼却エネルギーの効率的な回収による発電の最大化	①発電計画	5	・エネルギー回収率、年間売電量を評価する。 ・場内使用電力の削減、発電の高効率、最大化、エネルギー回収率の向上方策等、余剰電力の増加の工夫を評価する。	2	定量 定性	5
	(2) 地域におけるエネルギー供給拠点	①有効活用方法	6	・ゼロカーボンシティへの推進に向けて、電力の地産地消等、電気、蒸気の余剰エネルギーの活用方策について具体性を評価する。	2	定性	5
2 経済性に優れた廃棄物処理と環境負荷が低減できる施設							
3つの基本方針に関する提案	(1) 最新鋭の技術・機器による周辺環境負荷の最小限化及び省エネ化	①施設性能、安定稼働	7	・ごみ質及びごみ量の変動（特にプラスチック類の分別の実施）に対し、安定的に処理可能とする信頼性の高いシステムについて、優れた提案がなされているか評価する。 ・AIやIoT技術を用いた最新の自動運転技術等の効果的な活用、また、それらのシステムの異常発生時及び情報セキュリティへの対応策について評価する。	2	定性	5
		②省エネルギー・再生可能エネルギー	8	・温室効果ガスの削減、省エネルギー・再生可能エネルギー、環境負荷の低減、緑化施策等に対する提案について、具体性と実効性を評価する。	2	定性	3
		③公害防止基準	9	・排ガスの各種基準値を超過させないための手法と超過した場合の具体的な方法の妥当性を評価する。 ・騒音、振動、悪臭について、プラント設備の稼働による周辺環境への配慮、対応策について評価する。	2	定性	4
		④最終処分量の低減と資源回収率	10	・最終処分量の低減について、優れた提案がなされているか評価する。 ・有価物の品質及び回収率を向上させるための優れた提案がなされているか評価する。	1	定性	3
	(2) 施設整備から運営、維持管理までのライフサイクルコストの適正化	①経営計画・事業収支計画	11	・経営計画と事業収支計画について、計画性と妥当性を評価する。	1	定性	2
		②長寿命化計画・長期使用	12	・35年以上の長期に亘る施設の使用を見据えた具体的なかつ効果的な設計上の方策について評価する。 ・設備、建築物の補修・更新計画は業務期間終了後も含む長期に亘る安定稼働の継続を見据えた具体的なかつ適切な計画であるか評価する。 ・次期運営事業者への円滑な引継ぎ計画の提案がなされているか評価する。	2	定性	4
		③運営管理計画	13	・施設の安定稼働を継続する適切な運営管理体制・方法・計画となっていることを評価する。 ・維持補修費削減のための運転計画、点検・補修・更新計画が具体的なかつ適切な計画であるか評価する。 ・用役費削減のための運転計画、調達計画など具体的なかつ適切な計画であるか評価する。	2	定性	4
		④受付・搬入管理計画	14	・一般持ち込みごみの予約受付について、市民サービス向上の提案を評価する。 ・持込時の安全対策等、搬入管理の計画性と実効性を評価する。	2	定性	2
		⑤リスク管理とモニタリング	15	・リスク顕在化確率及び顕在化時の影響の極小化を考慮するリスク管理方針及びリスク管理体制に計画性と実行性を評価する。 ・セルフモニタリングの実施内容、頻度、報告内容等について、計画性と実効性を評価する。	1	定性	3
	(1) 災害時においても継続的に稼働し防災拠点としての機能を発揮	①施設の強靱化対策と災害発生時の施設運営	16	・地震、台風、火災、停電等の予期せぬ災害による人身事故及び機能障害などの防止や見学者及び作業員の緊急避難について、設計面及び運営面から計画性と妥当性を評価する。 ・地震対策、暴風対策を盛り込んだ災害に強い建築計画及び構造計画の妥当性を評価する。 ・安定稼働の継続を見据えた用水、用役等の貯留容量の設定や備蓄、調達先の確保等について、計画性と妥当性を評価する。	2	定性	4
(2) ごみ・環境問題を市民一人ひとりの問題として考える教育・学習機能の具備	①見学者対応・環境学習計画	17	・見学者の年齢や立場などに配慮した環境啓発プログラム、見学ルート、引率・説明手順、見学窓の配置などについて計画性と妥当性を評価する。 ・見学者及び環境学習プログラムに対する、社会の変化に即応した対応や方策、陳腐化防止策について妥当性を評価する。	2	定性	4	
	②情報発信	18	・本件施設の運転情報や関連施設でのイベント情報など、地域への情報発信について具体性を評価する。 ・市民・事業者に対し、SDGsの理念が定着し、ごみの発生抑制、再利用の推進、分別による資源化の促進及び廃棄物処理量の削減に努め、廃棄物処理に起因する温室効果ガスの発生量を抑制につながる具体的な啓発を評価する。	2	定性	4	
(3) 周辺の里山景観に調和し、ごみ処理施設のイメージを払拭する優れたデザイン性	①景観	19	・周辺の里山景観に調和した優れたデザインであることを評価する。 ・長期にわたって竣工時の美観を保持するための対策について、具体性と妥当性を評価する。 ・周辺に与える圧迫感の緩和や来訪者への配慮、工夫等を評価する。	2	定性	3	
技術評価点合計						70	

オ 技術提案書等の得点化

(ア) 技術提案に関する得点化方法

評価項目ごとに、次に示す5段階評価を行い、得点化した。

表3 技術提案書の評価判断基準

評価	判断基準	配点率
A	提案内容が非常に優れており、かつ、その効果が期待できる。	配点×1.00
B	提案内容が優れており、かつ、その効果が期待できる。	配点×0.75
C	提案内容の効果が期待できる。	配点×0.50
D	提案内容の効果がある程度期待できる。	配点×0.25
E	要求水準を満たしている程度。	配点×0.00

(イ) 算定式①により、各評価項目の評価点を算出した。各評価項目の配点に、判断基準のAからEまでの5段階の配点率を乗じて評価点とした。(点数は小数点以下第3位を四捨五入した値とする。)

算定式①【各評価項目の評価点の算定式】	
$\left( \begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{各評価項目の評価点} \end{array} \right)$	$= \frac{\text{各委員（各評価項目配点} \times \text{評価）の合計}}{\text{選定委員会委員の人数（4名）}}$

カ 開札及び入札価格の確認

三田市は、提出された入札金額が予定価格を超えていないことを確認した。

なお、入札価格の確認のための開札は、技術提案書の定量化審査終了後、入札説明書に定めた方法により応募者の立会のもと実施し、入札金額が予定価格を超えていない提案のみ入札価格の得点化を行うこととする。

キ 入札価格の得点化

応募者の入札価格について、次の算定式②により価格評価点を算出した。価格評価点は小数点以下第3位を四捨五入した値とする。

算定式②【価格評価点の算定式】	
$\left( \begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{価格評価点} \end{array} \right)$	$= \frac{\text{最低入札価格}}{\text{入札価格}} \times \text{配点}$

(3) 総合評価値の算定方法

「オ 技術提案書等の得点化」及び「カ 入札価格の得点化」により算出した各応募者の評価点から、次の算定式③により、各応募者の総合評価値を算出した。

また、総合評価値の最も高い提案書を最優秀提案者として選定した。

算定式③【総合評価値の算定式】		
( 当該入札参加者の 総合評価値 )	=	( 当該入札参加者の 技術評価点 ) + ( 当該入札参加者の 価格評価点 )

## 第4 審査結果

### 1. 入札参加資格確認

令和5年4月10日に入札公告を行い、令和5年5月18日を期限として入札参加資格申請を受け付けたところ、以下の2グループから申請があった。

事務局は入札参加資格の確認を行い、令和5年5月26日に代表企業に対して入札参加資格を有することを書面にて通知した。

なお、選定委員会による審査にあたっては、審査の公平を期すため、提案書等すべての書類において応募者の企業名を伏せ、表4の応募者名で識別して評価を行った。

表4 入札参加確認申請書類提出グループ

応募者名	「きじ」グループ	「さつき」グループ
代表企業	大栄環境株式会社	川崎重工業株式会社 関西支社
構成員	三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社	株式会社シンキ
	極東開発工業株式会社	
協力企業	株式会社柄谷工務店	株式会社奥村組 神戸支店
	株式会社エーアンドディー設計企画	日興建設株式会社

### 2. 技術提案書の基礎審査

令和5年9月15日を期限として入札参加資格を有する2グループから技術提案書が提出された。

応募者から提出された技術提案書の内容が、要求水準書に示す要件を満たしていることを確認した。なお、審査に際して要求水準未達に関する疑義、提案書間の齟齬等に関して、確認及び指示を行い、応募者からの修正回答を確認したうえで、問題ないと判断した。

その結果、応募者の代表企業に対して基礎審査を通過したことを書面にて通知した。

### 3. 技術提案書等のヒアリング及び技術評価

令和5年11月27日に、技術提案書等の提案内容を審査及び評価するため、基礎審査を通過した応募者に対しヒアリングを実施し、評価項目に対して技術評価を行った。

評価結果は表5に、技術評価に関する各評価項目についての講評は表6に示すとおりである。

表5 技術評価点の評価結果

評価項目		No.	配点		「きじ」 グループ	「さつき」 グループ	
事業全般に関する提案	1 事業全体に関する事項	①事業実施方針・体制	1	2	15	0.88	1.38
		②施設の全体配置・動線計画	2	4		2.00	2.75
		③施工計画	3	4		2.50	2.25
		④地域貢献	4	5		3.13	4.06
3つの基本方針に関する提案	1 循環型社会の構築を推進する施設						
	(1)ごみ焼却エネルギーの効率的な回収による発電の最大化	①発電計画	5	5	10	2.50	2.81
		(2)地域におけるエネルギー供給拠点	①有効活用方法	6		5	2.19
	2 経済性に優れた廃棄物処理と環境負荷が低減できる施設						
	(1)最新鋭の技術・機器による周辺環境負荷の最小限化及び省エネ化	①施設性能、安定稼働	7	5	15	2.50	2.50
		②省エネルギー・再生可能エネルギー	8	3		1.50	2.06
		③公害防止基準	9	4		2.00	2.75
		④最終処分量の低減と資源回収率	10	3		1.50	1.50
	(2)施設整備から運営、維持管理までのライフサイクルコストの適正化	①経営計画・事業収支計画	11	2	15	0.88	1.38
		②長寿命化計画・長期使用	12	4		2.50	2.75
		③運営管理計画	13	4		2.00	2.75
		④受付・搬入管理計画	14	2		1.25	1.25
		⑤リスク管理とモニタリング	15	3		1.50	1.88
	3 安心・安全の確保と市民に親しまれる身近な施設						
	(1)災害時においても継続的に稼働し、防災拠点としての機能を発揮	①施設の強靱化対策と災害発生時の施設運営	16	4	15	2.50	2.50
	(2)ごみ・環境問題を市民一人ひとりの問題として考える教育・学習機能の具備	①見学者対応・環境学習計画	17	4		2.75	2.75
		②情報発信	18	4		2.00	2.75
	(3)周辺の里山景観に調和し、ごみ処理施設のイメージを払拭する優れたデザイン性	①景観	19	3		1.88	1.69
	技術評価点合計			70		37.96	44.89

表6 ①技術評価に関する各評価項の講評

分類	評価(審査)項目	No	評価した事項	
事業全般に関する提案	①事業実施方・体制	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>両グループとも、三田市の基本方針を十分に理解した提案がされていた。</li> <li>特に「さつき」グループについては、代表企業を中心とした役割分担が明確な事業実施体制を高く評価した。</li> </ul>	
	②施設の全体配置・動線計画	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>両グループとも、本施設施工後の既存施設解体時において、解体工事車両とその他の動線分離に配慮した提案がされていた。</li> <li>特に「さつき」グループについては、見学者等のアプローチに配慮した明確かつ安全な車両動線が確保されている点を高く評価した。</li> </ul>	
	③施工計画	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>両グループとも、狭小地域での建設時における工程遵守のための方策と工事計画が具体的に提案されていた。</li> <li>特に「きじ」グループについては、新施設建設時及び既存施設解体時において、工事車両とごみ搬入車両等の動線が完全に分離され、安全性が高い点を高く評価した。</li> </ul>	
	④地域貢献	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>両グループとも、本事業の実施に際して、積極的な地元企業活用、地域雇用、社会貢献施策が提案されていた。</li> <li>特に「さつき」グループについては、本事業を通じた地元発注や地元雇用等の貢献度の高い具体的な提案を高く評価した。</li> </ul>	
3つの基本方針に関する提案	1 循環型社会の構築を推進する施設			
	(1)ごみ焼却エネルギーの効率的な回収による発電の最大化	①発電計画	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>両グループとも、売電電力量の確保に向けて、発電効率の向上や省エネルギーの推進等、経験に基づく最新技術の導入によるエネルギーの有効活用が提案されていた。</li> <li>特に「さつき」グループについては、発電設備の経済設計に配慮した点を評価した。</li> </ul>
	(2)地域におけるエネルギー供給拠点	①有効活用方法	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>両グループとも、ゼロカーボンシティの実現に向けた、具体的なエネルギーの活用方策が提案されていた。</li> <li>特に「さつき」グループについては、電力の地産地消に向けた具体的なシミュレーションに基づく提案を高く評価した。</li> </ul>
	2 経済性に優れた廃棄物処理と環境負荷が低減できる施設			
	(1)最新鋭の技術・機器による周辺環境負荷の最小限化及び省エネ化	①施設性能、安定稼働	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>両グループとも、AI等を活用した最新鋭の焼却技術による安定稼働が提案されていた。</li> </ul>
		②省エネルギー・再生可能エネルギー	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>両グループとも、具体的なCO<sub>2</sub>削減量が提示され、積極的な環境負荷の低減に向けた提案がされていた。</li> <li>特に「さつき」グループについては、建築設備等における具体的な省エネルギー技術の活用提案を高く評価した。</li> </ul>
③公害防止基準		9	<ul style="list-style-type: none"> <li>両グループとも、公害防止基準の遵守を行うため、確実性の高い公害防止対策が提案されていた。</li> <li>特に「さつき」グループについては、運転管理基準値の設定等における、停止基準を超過させないための確実性に配慮した提案を高く評価した。</li> </ul>	

表6② 技術評価に関する各評価項の講評

分類	評価(審査)項目	No	評価した事項	
3つの基本方針に関する提案	(1)最新鋭の技術・機器による周辺環境負荷の最小限化及び省エネ化	④最終処分量の低減と資源回収率	10	・両グループとも、経験に基づき、最終処分量の低減と資源回収率の向上に向けて、有効性の高い提案がなされていた。
	(2)施設整備から運営、維持管理までのライフサイクルコストの適正化	①経営計画・事業収支計画	11	・両グループとも、リスク移転等による安定的な経営計画と事業収支計画が提案されていた。 ・特に「さつき」グループについては、明確で具体的な経営安定化策の提案を高く評価した。
		②長寿命化計画・長期使用	12	・両グループとも、経験に基づく主要機器の耐久設計が提案され、長期使用が可能となる耐用年数の設定が提案されていた。 ・両グループとも、次期運営事業者への円滑な引継ぎ計画として、工程や手法等が具体的に提案されていた。
		③運営管理計画	13	・両グループとも、最新点検技術の導入等による維持補修費や用役費の削減に向けた提案がなされていた。 ・特に「さつき」グループについては、代表企業による安定稼働のための支援システム等、具体的な提案を高く評価した。
		④受付・搬入管理計画	14	・両グループとも、円滑な受付・搬入管理システムとともに、持込時の安全対策を含め、市民サービス向上が期待できる提案がなされていた。
		⑤リスク管理とモニタリング	15	・両グループとも、具体的なリスクの顕在化及びその対策が提案されていた ・特に「さつき」グループについては、設計・建設・運営の各段階に適したセルフモニタリングの提案を高く評価した。
3 安全・安心の確保と市民に親しまれる身近な施設				
(1)災害時においても継続的に稼働し、防災拠点としての機能を発揮	①施設の強靱化対策と災害発生時の施設運営	16	・両グループとも、地震時の災害に備えた施設設計とともに、用役の確保等、災害時における拠点としての機能を発揮するための具体的な提案がなされていた。	
(2)ごみ・環境問題を市民一人ひとりの問題として考える教育・学習機能の具備	①見学者対応・環境学習計画	17	・両グループとも、焼却施設を回遊できる見学ルートの整備、さらには画像等を活用した効果の期待できる見学設備や環境啓発プログラムが提案されていた。	
	②情報発信	18	・両グループとも、建設から運営段階までの地域への情報発信について、具体的な手法が提案されていた。 ・特に「さつき」グループについては、各種ツールを活用した幅広い世代を対象とした情報発信の提案を高く評価した。	
(3)周辺の里山景観に調和し、ごみ処理施設のイメージを払拭する優れたデザイン性	①景観	19	・両グループとも、三田市の景観計画を理解し、周辺環境等に配慮したデザインが提案されていた。 ・特に「さつき」グループについては、緑化を活用した里山景観との調和や長大壁面の圧迫感の軽減に配慮したデザイン計画等を評価した。	



#### 4. 価格評価

応募者の立会いのもとで令和5年11月27日に開札を行い、各応募者の入札価格が予定価格の範囲内であることを確認した。

開札結果から、入札価格を得点化し、価格評価点の評価を行った。価格評価点の評価結果は、表7に示すとおりである。

表7 価格評価点の評価結果

項目	配点	「きじ」グループ	「さつき」グループ
入札価格（税抜）	—	29,339,695,727 円	29,364,300,000 円
価格評価点	30	30.00	29.97

#### 5. 総合評価値の算出

「技術評価点」と「価格評価点」を加算し、表8に示すとおり、総合評価値を算出した。総合評価値の算出結果は表8に示すとおりである。

表8 総合評価値の算出結果

項目	配点	「きじ」グループ	「さつき」グループ
代表企業		大栄環境株式会社	川崎重工業株式会社 関西支社
技術評価点	70	37.96	44.89
価格評価点	30	30.00	29.97
総合評価値	100	67.96	74.86
最優秀提案者			○

#### 6. 最優秀提案者の選定

選定委員会は、上記の結果に基づき「さつき」グループ（代表企業：川崎重工業株式会社関西支社）を最優秀提案者として選定した。

## 第5 総評

本事業は、三田市の燃やすごみ等を35年以上にわたり安定して処理するための新ごみ処理施設を整備し、運営していくことを最も重要な目的としており、本事業を行ううえで、以下の3つの基本方針を掲げている。

- ① 循環型社会の構築を推進する施設
- ② 経済性に優れた廃棄物処理と環境負荷が低減できる施設
- ③ 安全・安心の確保と市民に親しまれる身近な施設

本事業では、施設的设计・建設及び運営・維持管理を一括して発注するDBO (Design-Build-Operate)方式を採用しており、民間の創意工夫による提案を取り入れた良質な設計・施工業務と効率的かつ効果的な運營業務を実施するものである。

選定委員会では、このような背景を踏まえ、選定基準及び選定方法等を定め、最優秀提案者選定のための審査を実施した。

今回、入札に参加した2グループの提案は、いずれも本事業の特性を的確に捉えたうえで、本事業の有する課題に対応するための創意工夫がなされ、両グループの過去の実績をベースにした魅力的なものであり、真摯な対応に感謝するものである。

落札者決定基準に基づき、提案書及び入札価格に対して厳正なる審査を行った結果、川崎重工業株式会社関西支社を代表企業とする、「さつき」グループを最優秀提案者として選定した。

「さつき」グループの提案は、三田市が期待する創意工夫と経済性を両立していると評価したものであり、特に「エネルギーの有効活用」「環境啓発に関する情報発信」「地域貢献」について、高く評価した。

今後、三田市と「さつき」グループ（代表企業：川崎重工業株式会社関西支社）は、それぞれの責任を果たしながら新施設の整備とその運営に取り組むこととなるが、本事業をより良いものとするため、下記の事項について、両者の協働のもと、真摯に対応していただくよう、選定委員会として要望する。

- ① 事業期間を通じて、要求水準事項及び提案事項を確実に履行すること。また、その履行に向けて、今後の設計、施工及び運営維持管理にあたっては、三田市と十分に協議すること。
- ② 本事業は、既存施設を稼働させながら、狭小な敷地内で建て替えを行うものであり、渋滞対策及び安全対策に十分に配慮したうえで、円滑に工事が進捗するよう、三田市と十分に協議すること。
- ③ 本施設の稼働データの活用を含む取扱い方法については、事前に三田市と十分に協議すること。
- ④ 三田市のゼロカーボンシティの実現を見据えながら、本施設にて発電した電力については、公共施設への自己託送等、三田市内での有効活用方策について、三田市と十分協議し、支援を図ること。
- ⑤ 事業期間を通じて、地元雇用と地元企業の活用提案を確実に実現するとともに、更なる拡大に努めること。
- ⑥ 一般持込ごみの予約受付において、キャッシュレス化への対応について、三田市と十分に協議すること。

- ⑦ 災害規模に応じて、ごみの代替処理に加え、収集運搬を含めた様々な支援体制を構築し、災害時における三田市への全面的な支援に努めること。
- ⑧ 環境学習において、施設見学ルートのバリアフリー化をはじめ、幅広い世代の誰もが親しみと興味を持てる施設を整備するとともに、デジタルサイネージの採用等、社会変化に即応可能な環境啓発プログラムを構築し、学習内容等の陳腐化防止に努めること。
- ⑨ 三田市山並み・田園計画の掲げる目標の実現のため、実施設計において三田市景観審議会等の意見を真摯に受け止め、計画に反映するよう努めること。

本事業が、三田市と「さつき」グループ（代表企業：川崎重工業株式会社関西支社）の協働のもと、これまで三田市と地域が築いてきた信頼関係をより一層発展させ、未来のゼロカーボンシティ推進の一翼を担うこととなるよう強く期待する。

三田市新ごみ処理施設整備・運営事業者選定委員会委員長 吉田 篤正